

乾田化は高品質米生産への第1歩！

令和8年3月 水稻技術情報①
佐渡農業普及指導センター
TEL 0259 - 63 - 3185

Point. 春作業前に田んぼを乾かすメリットについて3点紹介しています。今のうちにしっかり乾かして、スタートダッシュを決めましょう！

1. 作業性の向上

過湿状態の作業では、ぬかる場所でロータリー等の作業機が深く下がり、ほ場の深さが不均一になります。



機械の旋回で田面の一部が凹んでいる様子



乾かしてから作業を行うと...

大型機械でもぬからず作業でき、ロータリー等作業機の深さが安定するため、耕起・代かきの深さも安定します。

耕深の均一化

生育の均一化
除草剤効果の安定

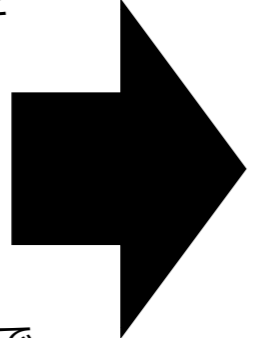


良好な
初期生育の確保

収量・品質の安定化

2. 土壌への酸素供給

過湿状態の水田は還元状態となり、ワキの発生等による稲の生育不良を引き起こします。そのため、乾かしてから耕起し、土壌に酸素を供給することが必要です。



3. 有機物の分解促進

入水前に土壌をしっかり乾かすことで、入水後の微生物による有機物分解が促進され、土壌中の窒素分が増加します。

★耕起前には**簡易明渠や暗渠開栓等での排水対策**を徹底しましょう！



明渠



乾田耕起

コシヒカリBLの 育苗作業の注意点

普及センター
生育速報
技術情報



①塩水選

充実が良好な種子を選別します。
○発芽障害が起こらないように、塩水選後は必ず水洗いをしましょう。
○塩水選後に温湯消毒をする場合は、必ず十分に乾燥させてから行いましょう。

区分	比重	水10L当たりの食塩の量	水10L当たりの硫安の量
うるち	1.13	1.9 kg	2.5 kg

②種子消毒

種子伝染性病害（ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病）の防除を目的として行います。
○温湯消毒は、**乾籾を60℃の湯に10分間**漬けた後、直ちに冷水で冷やします。
※温湯消毒済みの種子を使用する方はここから
○温湯消毒のみでは防除効果が劣るため、**生物農薬との体系処理**を行いましょう。
○新たな病原菌の感染を防ぐために、消毒後は**清潔な場所に保管**しましょう。

③浸種

種籾の吸水を促し、発芽の準備を完了させます。
○**必ず清水（水道水、井戸水）を用い**、種籾1kgに対して3.5ℓの水量で行います。
○**低水温（10℃以下）での浸種では発芽が劣る**ため、温度管理を徹底しましょう。
※R7産コシヒカリBL種子は休眠が深いため、浸種・積算水温は()内の値をめやすに行いましょう！

浸種水温	積算水温
10~15℃ (12~15℃)	100℃ (120℃)

※()内は休眠が深い場合のめやす

④催芽

種籾の発芽タイミングを揃えることで、生育のバラつきを少なくします。
○30℃で1~2日をめやすに行い、**8割以上がハト胸状態**になるよう催芽日数を調節しましょう。
○催芽が不十分だと生育のバラつきにつながるため、**必ず発芽状態を確認してから**催芽を終了しましょう。



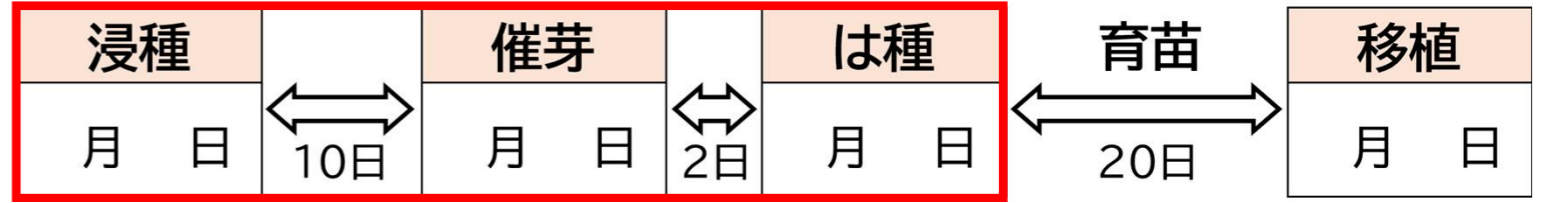
ハト胸状態

⑤は種

適正は種の徹底が健苗育成の第一歩です。
○均一には種するため、種籾を握っても手に付かない程度に脱水または陰干しを行いましょう。

苗箱数	15~17箱/10a
乾籾	130~140g/箱
催芽籾	160~175g/箱
かん水量	1~1.2ℓ/箱

★移植日から逆算して作業日程を決めましょう！

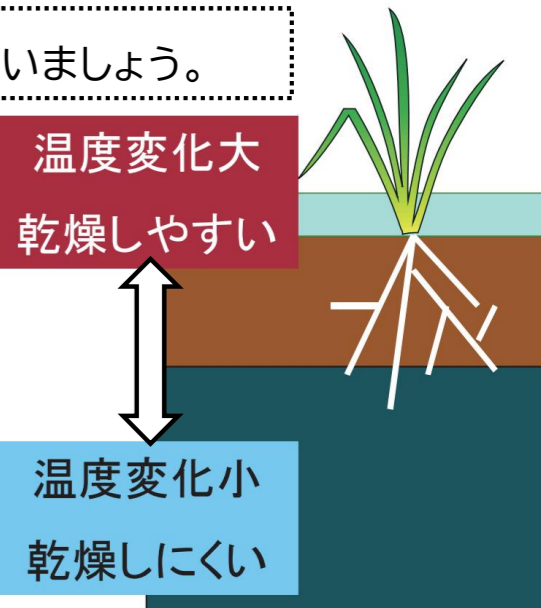


本田作業の注意点

※ 肥料成分の損失を防ぐために、全層施肥を行う場合は施肥日をできるだけ田植え日に近づけましょう！

⑦ 耕起 耕深15cmを目標に**乾いた状態**(P1参照)で行いましょう。

- 土壌の上部は外気の影響を受けて乾燥しやすいため、作土が浅いと根の分布が上部に集中し、干ばつや高温障害等に対する抵抗力が弱くなります。
- **耕深の目標は15cm**ですが、一度に深くすると下層の不良土壌が多く混入するため、毎年少しずつ耕深を深める必要があります。



⑧ 代かき 田面を平らにし、生育ムラをなくします。

- 水位は**田面が見えかくれる程度の最小限**とします。
- 粘質な土壌においては、表層だけを膨軟にし下層に土塊が残る程度に代かきを行い、土壌を**練り過ぎないように注意**しましょう。
- 代かき水には肥料などが溶けているので、水質汚染防止のため、代かき直後に**排水してはいけません**。
- 雑草の繁茂や浮き苗を防止するために、代かきは**移植の2~3日前**に行いましょう。



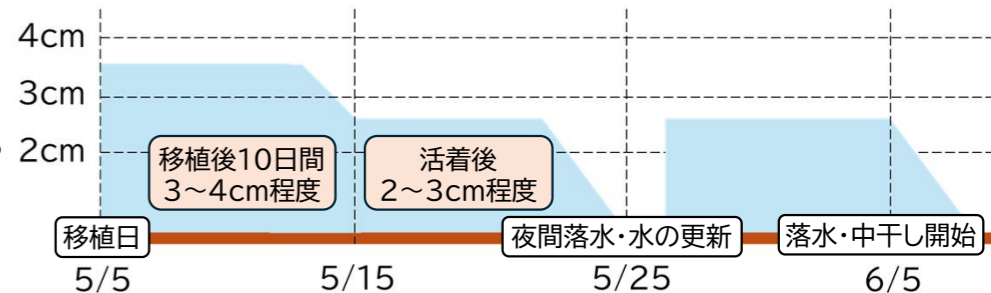
⑨ 移植 適切な植付け深さと水管理で初期生育を確保しましょう。

- **植付け本数は3~4本**とします。多いと過繁茂になり、細莖化による倒伏や品質低下を生じやすくなります。
- **植付け深さは2~3cm**とします。深植えは下位分げつの発生を抑制し、初期生育が劣る原因となります。
- 補植は連続2~3株の欠株に1株を目安として行いましょう。
※ 補植はできるだけ早く行い、残った苗はいもち病の発生源となるため速やかに撤去しましょう。

植付け中に確認して適正となるよう調整しましょう。

★ 移植後の水管理

- 水温が高いほど発根、活着が早いので、日中は止水します。
- ※ 低温や強風時には4~5cmのやや深水で植え痛みを回避しましょう。



⑥ 出芽～硬化期の管理 温度管理の徹底でヤケ苗の発生を防止しましょう！

(1) 出芽期 【目標】 出芽長 0.5~1.0 cm

	日中 (ヤケ苗注意)	夜間 (ムレ苗注意)	日数
(無加温) 出芽	30℃以下 ※30℃を超えないように換気	15℃以上	4~6
緑化	20~25℃	15~18℃	2~4
硬化	15~20℃	10℃以上	12~13

ア 加温出芽の場合

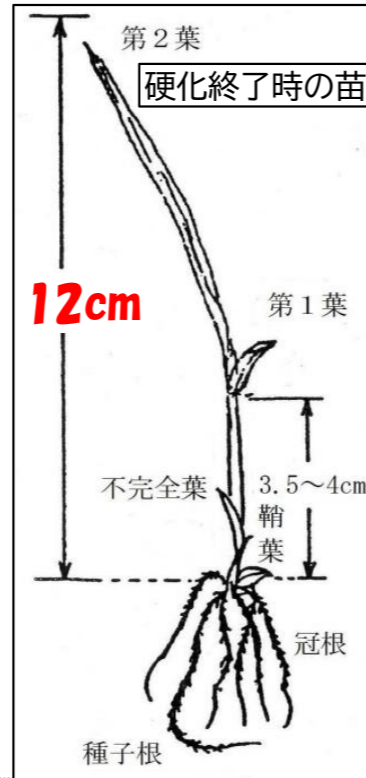
- **30℃で2~3日**を基準とします。
- 緑化への移行の際に、15℃以上の急激な温度変化や強光に当たると白化苗を生じる原因となるので注意しましょう。

イ 無加温出芽の場合

- **日平均気温が10℃程度**に上昇した頃から、は種を行いましょう。
※ 出芽期間が低温・少照の場合は苗立枯病が発生しやすくなります！
※ 10℃未満の時期に出芽を行う場合は、二重被覆等で保温しましょう！
- 覆土に持ち上がりが見られたら、かん水を行いましょう。

(2) 緑化期 【目標】 第1葉鞘長 3.0 cm 葉齢 1.0~1.5葉

- **最低温度を10℃以上に保ち**、低温時には二重被覆で保温しましょう。
- **好天時には温度が急上昇するため、温度が上がる前に換気を行い、ヤケ苗・徒長苗の発生を防止**しましょう。
- かん水は午前中の早い時間帯に行いましょう。



(3) 硬化期 【目標】 苗丈 12 cm 葉齢 2.0~2.2葉

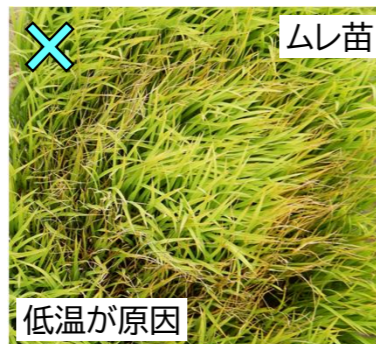
- **8℃以下の低温や20℃以上の高温**にならないように管理を行いましょう。
- 移植の1週間前頃から**外気に慣らすために**ハウスを開放しましょう。
- **2.0~2.2葉**で移植を行いましょう。

★ 苗の老化防止と活着向上のために移植前追肥を行いましょう！(※徒長苗は除く)

- **移植前4~5日(1.8葉期)頃**に、窒素成分で**約1~2g/箱**を追肥する。

- **健苗**
 - ・ 太く丸みのある茎
 - ・ 幅広で厚みがあり濃い色の葉
 - ・ 籾に養分がある

- × **徒長苗**
 - ・ 細く、軟弱な茎
 - ・ 細長で厚みがなく薄い色の葉
 - ・ 籾に養分が少ない



低温が原因

換気不足が原因